

音楽Ⅱ・音楽Ⅲ・総合芸術選択生へ③

音楽科 古川

音階①

3回目は、音階についてです。ある音を起点として、1オクターブの間をある秩序にしたがって配列した音列を音階といいます。

基本的に楽典はイタリア語、ドイツ語、フランス語、英語を使い日本語は使いません。皆さんもドイツ音名を使うと思いますが、それは世界基準になっているからです。音階を学ぶにあたり、私のクラスでは音名はドイツ音名です。義務教育では日本音名が教科書に出てきますがそれは日本人しか通じません。簡単に復習しておきましょう。

階名・・・ドレミのことです。これ(Do、Re、Mi)はイタリア語です。階名で歌うことを**階名唱法**

と呼び、ドの音高が音名に即して移動するので**移動ド唱法**とも呼ばれます。これに対して、音名で歌うことを**音名唱法**、**固定ド唱法**と呼ぶ。私は基本的に固定ドですが移動ドも使えます。簡単に言えば、ドはドにしか聞こえないのが固定ドです。移動ドの人は曲の調が変わるとドの位置がずれていく人です。

Cdur(ハ長調)では、きらきら星はドドソソラソですが、Ddur(ニ長調)ではレレララシシラですね。これは私と同じ**固定ド**です。しかし移動ドの人にはどちらもドソソララソです。どちらが有利であるかという議論は古くからありますが決着をつけることはできていませんが、聴音のことを考えると**固定ド**がいいでしょう。

みなさんはどちらですか？

音名・・・CDE(ツェー、デー、エー)ドイツ語です。ここには各国の音名が存在します。

日本ではクラシックではドイツ式、ポピュラーではアメリカ式、学校教育では日本式が使われています。学校では「ハニホヘトイロハ」と習います。これについて書くと論文級になるので書きませんが明治30年代までは「ヒフミ唱法」を使っていました。「ヒーフミーヨーイームナーヤー」は廃止され、明治40年以降「ドレミ唱法」になりましたが、当時は移動ド唱法だったそうです。しかし日本音名は第二次世界大戦中に国民学校に通達されたもので今では分からない規則もあります。幹音の「ハニホヘトイロハ」だけが残っています。カタカナとひらがなで音域を示し、♯を嬰、bを変で表します。理論上は知っておいてください。

各音名表

独	C ツェー	D デー	E エー	F エフ	G ゲー	A アー	H ハー	C ツェー
日	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	イ	ロ	ハ
伊	Do	Re	Mi	Fa	Sol	La	Si	Do
仏	Ut	Re	Mi	Fa	Sol	La	Si	Do
英	C	D	E	F	G	A	B	C

○ドイツ式において♯は is(イス)、bは es(エス)が音名の後に付きます。

○日本式において♯は嬰(えい)、bは変(へん)が音名の前に付きます。

シャープ

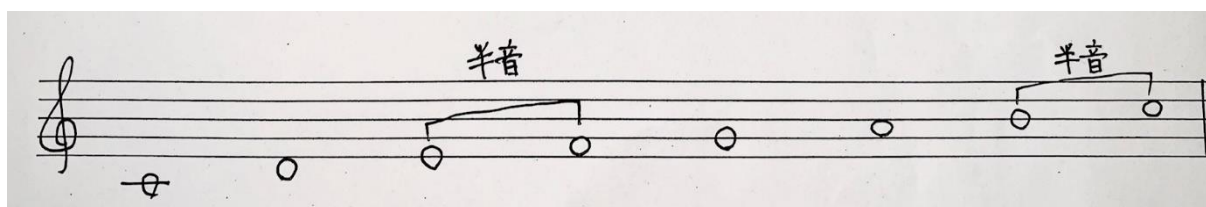
独	Cis ツイス	Dis デイス	Eis エイス	Fis フィス	Gis ギス	Ais アイス	His ヒス	Cis ツイス
日	嬰ハ	嬰ニ	嬰ホ	嬰ヘ	嬰ト	嬰イ	嬰ロ	嬰ハ

フラット

独	Ces ツェス	Des デス	Es エス	Fes フェス	Gs ゲス	As アス	B ベー	Ces ツェス
日	変ハ	変ニ	変ホ	変ヘ	変ト	変イ	変ロ	変ハ

1. 長音階(Dur)

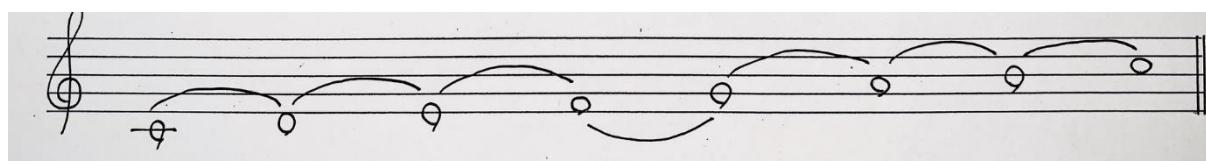
下記はCを起点とし、幹音だけで構成されている長音階です。



I II III IV V VI VII I

音符の下に付されたローマ数字は、それぞれの音が音階の何番目の音であることを示しています。この音階の各音がどのような秩序(音程関係)によって配列されているか見てみましょう。

長2度 長2度 短2度 長2度 長2度 短2度



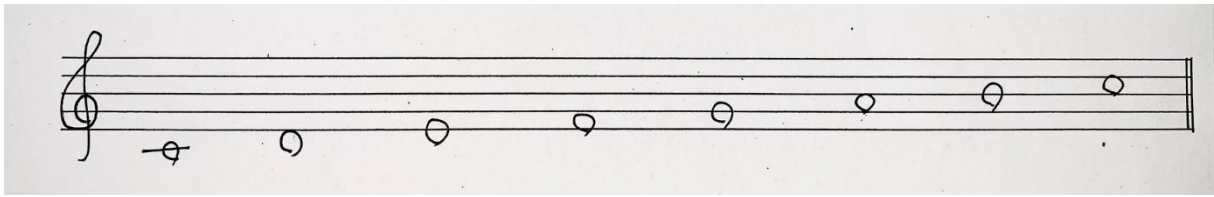
長2度

I II III IV V VI VII I

上記より、I・II・III・IVの音程関係とV・VI・VII・Iの音程関係は同じです。

IV・Vは長2度ですね。長音階のI・II・III・IVと同じ音程関係にある、4個の音からなる音列をテトラコードといいます。

音階のⅠを主音、Ⅳを下属音、Ⅴを属音、Ⅶを導音という。

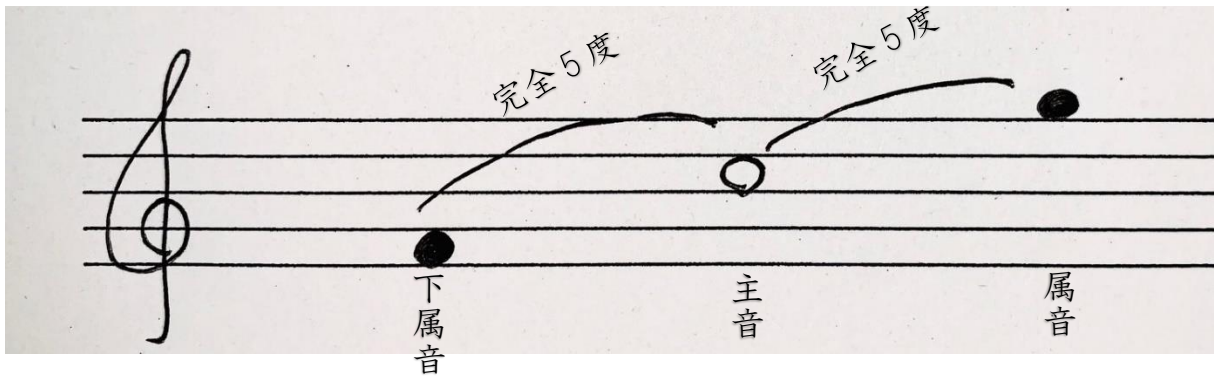


Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅰ
主音	上主音	上中音	下属音	属音	下中音	導音	主音

主音: 音階の起点であり、音階を代表する最も重要な音。

属音: 主音の完全5度上にあり、主音を支配する力を持つ音。

下属音: 属音は主音の完全5度上に位置するのに対して、下属音は主音の完全5度下に位置する。主音を中心として、属音と対称の位置にあたる音なのでこの名がある。主音と属音の働きを補助する音。

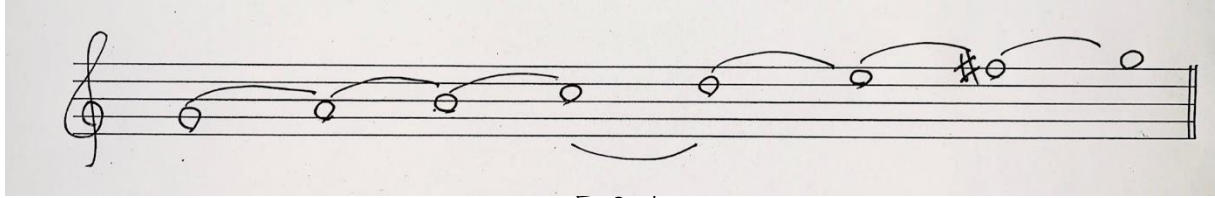


導音: 音階のⅦ音が属和音の第3音(例えばソシレのシ)、あるいは属和音に準ずる諸和音の構成音であるとき、次の主音にすすもうとする性格をもつ。主音に導かれる音なので導音と言う。

※長音階はすべての幹音、派生音(ダブルは除く)を開始音にして作ることができる。

Gを主音とする長音階(Gdur)

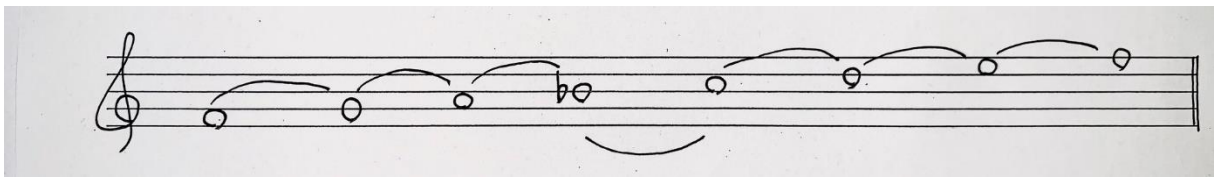
長2度 長2度 短2度 長2度 長2度 短2度



I II III IV V VI VII I

Fを主音とする長音階(Fdur)

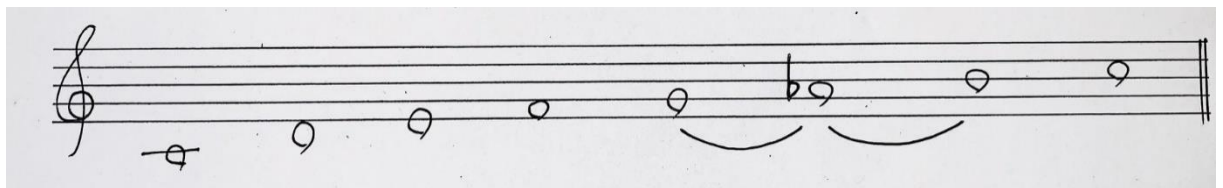
長2度 長2度 短2度 長2度 長2度 短2度



長2度

I II III IV V VI VII I

注)長音階は、時によってそのVIが臨時記号によって半音低くされて用いられることがあります。これは**和声長音階**と呼ばれるもので、この音階による長音階を Molldur(モルドゥア)という。



短2度 増2度

長音階(Dur12調)は全てピアノで弾けるように。次回は短音階です。